



(左) 藤原 大礎さん
(中) 藤原 妙子さん
(右) 藤原 妃万璃ちゃん

聴覚障がい者の立場から

三木の祭りと野球観戦が好き。
意思疎通がもっとと良好になれば

そう語るのは、三木市ろうあ協会会長の藤原大礎さん。妻の妙子さん、娘の妃万璃ちゃんと3人で暮らしています。

大礎さんと妙子さんは先天的に耳が聞こえず、手話を使ってコミュニケーションをとるろうあ者で、妃万璃ちゃんは手話と音声言語の両方を

使って生活しています。

楽しみにしていることば。

大礎さん 地域の祭りに参加することと野球観戦です。私は耳が聞こえず、近くで車のクラクションが鳴っても気がつかないのですが、太鼓は音が振動となって体に伝わるため、響きを



感じ取ることが出来ます。人々が熱くなる姿を見るのも好きで、大宮八幡宮の秋祭りでは、屋台を担いで85段の階段を上る「石段登り」にも参加しています。

妙子さん 私は娘の成長を見るのが一番の楽しみです。普段、忙しい日々を送っていますが、時間があるときに家族の写真を整理したり、日記に貼ったりする中で、娘の成長を感じています。

暮らしている中での困りによって

大礎さん レストランで注文したメニューと違ったものが出てきたときなど、コミュニケーションの難しさを痛感する時があります。

また、インターネットや動画配信サイトを情報源として重宝しているのですが、視力を損なうわけにはいかな



いので、情報収集にもある程度制約がかかってしまうことです。毎週開催される手話サークルみきでは、参加者間で情報交換ができるので、楽しみにしています。

妙子さん 外出先で周囲の方から声をかけられても、何を言われているのかが分からず、お互いに困ってしまうことがあります。

聞こえる方とのコミュニケーションは筆談でお願いすることが多いのですが、私たちにとって一番分かりやすいのは母語である手話です。

一人でも手話ができる人が増え、交流を膨らませたらいいなと思います、手話講座の講師として現在活動しています。

知っていますか？

～始めよう 聞こえない人・聞こえる人の思いを知ることから～

3 すべての人に健康と福祉を	10 人や国の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを	17 パートナーシップで目標を達成しよう

三木市は、障害の有無に関係なく市民一人一人が「誇りを持って暮らせるまち」をめざしています。

「聴覚障害」は耳が聞こえない・聞こえにくいために、情報の取得やコミュニケーションなど生活のさまざまな面で支障をきたすことがある状態のことで、先天的なものに限らず、老化や事故など、誰にでも起こり得るものです。

聞こえない人と聞こえる人、まずは両者の思いを知ることが意思疎通をスムーズにする第一歩。

さまざまな立ち場の視点から社会の課題を考えます。

問 (市)障害福祉課 障害者支援係



▲毎週木曜・土曜に開催の「手話サークルみき」。手話が必要な方・学んでいる方などが参加し、情報交換などを行っています。

聴覚障がい者は、みんな同じではない。

「聴覚障がい者」は大きく3つのグループに分類され、使用する言語などに違いがあります。

手話コミュニティ

ろうあ者

基本的に音声の伴わない手話を母語とするグループ

全国で約6～10万人(推計)

音声言語コミュニティ

難聴者

残った聴力を活かして、音声言語でコミュニケーションをとるグループ

全国で約1,430万人(推計)

中途失聴者

日本語獲得以降に聞こえなくなったグループ